

## 平成25年度津山工業高等専門学校有識者懇話会記録

**1 日時** 平成26年1月27日(月) 13時30分～15時30分

**2 場所** 津山工業高等専門学校 管理・一般科目棟2階 会議室

### 3 出席者

#### 外部委員

学校法人就実学園理事長	千葉 喬 三
美作大学長	船 盛 茂
津山市長	宮 地 昭 範 (御欠席)
岡山県美作県民局長	増 本 好 孝
美作地区中学校長会会長	山 田 隆 文
津山商工会議所会頭	牧 野 大 作 (御欠席)
津山圏域工業会幹事	友 末 誠 夫
津山高専同窓会会長	末 澤 俊 一
人形峠環境技術センター所長	竹 中 信 吾

#### 学校関係者

校長	則 次 俊 郎
教務主事(副校長)	岡 田 正
学生主事(校長補佐)	杉 山 明
寮務主事(校長補佐)	吉 富 秀 樹
専攻科長(校長補佐)	藪 木 登
機械工学科長	小 西 大二郎
電気電子工学科長	植 月 唯 夫
電子制御工学科長	山 本 吉 範
情報工学科長(代理)	河 合 雅 弘
一般科目(文科系)学科長	大 田 肇
一般科目(理科系)学科長(代理)	有 本 茂
地域共同テクノセンター長	小 林 敏 郎
国際交流委員会委員長	田 辺 茂
教育システム点検委員会委員長	野 村 健 作
事務部長	石 津 成 生
総務課長	田 邊 鉄太郎
学生課長	阿 藤 俊 二
学生課課長補佐	重 松 宏 明
学術・社会連携推進事務室長	井 上 修

#### 4 議事等

- 一 開会
- 二 校長挨拶
- 三 有識者懇話会委員及び津山高専出席者の紹介
- 四 日程説明
- 五 座長選出
- 六 津山工業高等専門学校の現状と課題説明
  - 津山工業高等専門学校の現状と課題（校長）
  - 技術者育成の基盤環境の整備（教務主事）
  - 学生指導の取り組み（学生主事）
  - 寄宿舎北辰寮について（寮務主事）
  - 専攻科の現状と課題（専攻科長）
  - 地域共同テクノセンターの活動（地域共同テクノセンター長）
  - 津山高専における学生の国際化への取り組み（国際交流委員会委員長）
- 七 質疑応答・意見交換
- 八 有識者懇話会委員による評価
- 九 座長挨拶
- 十 校長挨拶
- 十一 閉会

#### 5 質疑応答・意見交換等

##### 【質疑応答】

**Q 推薦選抜において作文を課していることで、理数系志望の生徒の志望校選択から外されている状況はないだろうか。廃止するか、パソコンを使用して実施する等を検討してみてもどうか。**

A 作文を導入した経緯としては、中学校や学習塾の先生方からの、能力・意欲のある生徒が面接で上手に自己表現できない場合が多々あり、そういった生徒を救済するために作文を導入してもらえたらという意見を反映させたという面があります。

また、作文といっても、いわゆる文系で課されているものとは異なり、文章をきちんと読んで、問われていることに対して論理的な思考で回答できているかといったところを見えています。

これらのことは、中学校側にも十分説明して、理解していただいているものと思っておりますが、満足されているかどうかは今後、調査・検討していかなければならないと考えています。

**Q 本質的に留年者が多いのは何故か。**

A 留年者の約4割が学力不足で単位取得できない者、また4割弱が高専の勉強以外の進路に積極的に進んでいっている者、残りの2割程度が病気や家庭の事情等で学校に通えない状態になっていく者、というのが現状です。その結果として、3～4%に収まれば、教育機関としてはある程度仕方がない割合ではないかと考えます。そして、約4割の学力不足の学生をどれだけケアできるかが課題となります。

**Q 入試倍率について、目標としている実質2倍を達成できているか。**

A 推薦+学力(推薦基準に足らないが本当に津山高専に来たい人)+学力(試しに受けてみようという人)が320名を常に超えていたいと考えていますが、大体その水準になっていると思います。

**Q 女子学生数の割合について、津山高専と同じような学科構成の他高専と比較してどうか。**

A 全国の高専の平均が2割程度だが、津山高専は1割程度です。

最近では理数系志望の女子生徒は、看護、福祉、薬学等に目が向いていて工学には目が向いてないような傾向が見られます。工学に目を向けてもらうために、1つの方法として、モデルを示さなければと考えますので、専門学科に女性教員を入れる、オープンキャンパスの卒業生講演で、社会で活躍している女子卒業生に必ず1名は講演者として来てもらうなどして努力していきたいと思っています。

**【意見交換・提案等】**

●小・中学校で行っているようなきめ細かい1人1人への学生指導を行っていることに感謝・安心している。

さらに、「連携」をキーポイントに、先生同士の素早い情報交換・情報共有でもって、発達障がいのある学生をはじめ1人1人の学生に対してスピーディな対応をしてもらえたらと思う。

●中学校の生徒も教員も津山高専の情報を持っているようで持っていないので、中学校に対して、より一層のPRをお願いしたい。

●津山地域に若い人が800名いてくれるのはありがたい。これを維持して行ってほしい。できれば、地元企業との連携を強めることで、県内に就職・居住して、津山地域の発展に寄与して行ってほしい。

●学生が必要を理解したなら、読書をはじめ勉学に励むようになると思う。そういった学生を目覚めさせるような教育をして行ってほしい。信頼できる学生を育てるのが津山高専の使命だと思っている。

→ 津山高専としては、①全体として平均値を上げる、②下位の学生を(時には特別にチームを作って)ケアする、③伸びる学生をどんどん伸ばす、この3段階でもってやっている、そのあたりはきちんと行っています。教員としても伸びる学生がいるからやっていけている面があります。

## 6 挨拶

### 【座長】

預かった子供たちをどこまで引っ張り上げるかというのは、全ての教育機関の課題であります。津山高専では、いろいろな形で対応していて心強く思っています。また、「国際」というところに視野を持ってやっっていこうとしているのも心強いです。議論のあった作文について、理系・文系を切り離して考えたりするのは実はあまり意味が無く、理数系を伸ばすために日本語での表現力等を伸ばし、それが英語にも繋がる、まず日本人として大事なものを教えておこうという津山高専の姿勢に感銘を受けています。

津山高専は近年、大変努力され、10年前とは比較にならないほど進歩していると思います。できることをいろいろと取り入れて引き続きがんばってほしいと思います。教育の成果はすぐには現れないが、続けていけば出てくるはずなので、もう少し「津山高専方式」を確立して、教育機関として成果を出して行ってほしいと思います。

### 【校長】

本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

今後の課題である入試の問題、カリキュラム、学生の指導等、試行錯誤しながら、また、ご意見等いただきながら取り組んでいき、成果等についても分析し、将来につなげていこうと思います。

中学校への広報についても、高専の良さを、実際に接触しながらPRしていきたいと思っています。

これまでの50年とは高専を取り巻く環境は明らかに異なり、新たな50年に向けて、地域に貢献できるような教育体制をみなさまのご指導をいただきながらつくっていきたい、また、全国の51高専を代表するような高専になりたいと思っています。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。